



◆◆北海道ミニ国研修会◆◆

全国的にはお盆頃に各地域で国体出場チームを決める「ミニ国」が開催され、それに合わせて審判員・指導者の研修会が行われています。例年、そこにJFAよりサッカーS級審判インストラクターが派遣され研修会の講師を行ないます。

北海道では、ミニ国という仕組みがここ何年間か、なかったこともあり、高校サッカー選手権大会北海道予選大会を審判員研修会に当て、JFA講師の指導を受けてきました。

今年度は、10月20日～22日、旭川市にて、梅本博之氏（関西地域審判委員長、元国際主審、大阪）が講師として来道され指導を受けました。

<日時> 平成29年10月20日（金）～10月22日（日）

<場所> 花咲スポーツ公園陸上競技場、神楽公民館、東光スポーツ公園競技場、東川ゆめ公園サッカー場、忠和公園多目的広場

<講師> JFA 派遣インストラクター 梅本博之様

北海道サッカー協会審判委員長 柳元良文氏

インストラクター：木島栄氏、木下英則氏、砂川邦裕氏

伊藤真也氏 古曾部統太郎氏

旭川地区審判委員長 渡部学氏、高体連審判長 宮武宏行氏

レフェリーディベロップメントオフィサー：山崎裕彦氏

10月20日（金）

15：00 集合：花咲スポーツ公園陸上競技場 体力テスト

40メートル走×6セット

インターバルテスト 75m-25m 15s-18s ×40セット

18：45 開講式

19：00 大会要項・競技運営上の注意事項宮武高体連審判委員長

19：20 競技規則テスト

20：00 講義1 「動きとポジショニング」梅本 INS

ポジショニングと動きの中で攻守の切り替わりに重点をおき講義が行なわれた。

攻守が切り替わった際に遅れずに展開についていくには、最もゴールに近い攻撃をされた時のイメージを持つことで展開に遅れることなくついていくことができる。

動きの質の中では、ON と OFF 際にどのような動きをするかということである。

ON とは、鋭い動きで争点へと近づくことやスプリントのような動きで心拍数が高いような状態のことで、OFF とは、周囲を見つつ情報収集を行い動きのきっかけを生み出す段階のことで、心拍数は低い状態のことである。

サイドステップは、動きのつなぎ目として使う ON～OFF へ OFF～ON へと繋いでいく。講義



では実際に日本のトップレフェリーの映像を用いて ON の動き・OFF の動きを確認、共有した。いつ、どのタイミングで動き出すかまた、広い視野を確保するために体の向きが重要であるということが確認できた。

90 分間の集中力続かせるためには、常に脳みそを ON にしておくことである。そのためにはフィジカル面での余裕を持つこととメンタルの強さが重要である。



10月21(土)

6:30 モーニング 8:30 競技会場到着 会場点検

10:30 第一試合 12:20 第二試合 14:10 第三試合

16:00 各会場振り返り 18:30 全体振り返り 伊藤 INS

19:15 講義2 「試合の振り返り」 梅本 INS

試合中多く繰り返されるスプリントでは、視野が狭くなってしまうので狭くならないようにポジショニングを取り視野を確保しながら争点を監視していくことが判定をしていく中で欠かしてはいけない。FK の中では、クイックスタートを保証するためにレフェリーのポジショニングが重要で、ボールによっていったらクイックスタートに遅れてしまうこともあれば、ポイントを示して壁を下げたらクイックスタートを保証することができなくなってしまうので、ポイントと壁との中間のところに場所を取り壁を下げるということが一つの手段として取り上げた。開始10分間の中でチームのプレスタイルやキーマンとなる選手のプレスタイルを把握していきそれと同時にゲームプランを見ていきながら残りの時間のレフェリングを考えていく。状況が変わっていく中で試合の中で修正をしていく能力は必要である。

10月22日(日)

6:30 モーニング

8:30 競技会場到着 10:30 第一試合 12:20 第二試合 14:10 第三試合

16:00 各会場の振り返り 16:30 閉講式

<競技規則テストの一例>

問1. 第3条に関して、()の中に適当な語句や数字を記入しなさい。

● 競技者の数

試合は、(①)によって行われる。

そのうち(②)である。

いずれかのチームが7人未満の場合、(③)もされない。

● 交代の数

交代の数は、(④)でも最大5人までとする。ただし、

(⑤)、あるいは各国の「A」代表チームが出場する男子および女子の競技会では、交代は最大で(⑥)までとする。

競技会規定には、(⑦)までの範囲で、氏名を届けることができる交代要員の数を明記する。

● 反則と罰則 (*抜粋)

主審の承認なく、競技者がゴールキーパーと入れ替わった場合、主審は:

- ・ (⑧)) を認める。
- ・ 次のボールがアウトオブプレーになったとき、 (⑨)) を警告する。ただし、 (⑩) (延長戦を含む))、試合終了から延長戦の開始まで、あるいは (⑪)) までに入れ替わった場合においては、この限りではない。

問 2. 以下の各質問に答えなさい。

- (1) 第 4 の審判員の援助にはどのようなものがありますか？
- (2) オフサイドの反則で、「相手競技者を妨害する」を具体的に説明しなさい。
- (3) ペナルティーキックの進め方を説明しなさい。() に記入する。
 - ・ ボールは、()
 - ・ ()
 - ・ キッカーとゴールキーパー以外の競技者は、
 - ・ () 離れる。
 - ・ ()
 - ・ () の中、 ・ペナルティーエリアの外
 - ・ ()、主審はキックを行うための合図をする。

問 3. 次のような場合、主審はどうしますか。

- (1) 得点后、プレーが再開される前に、主審が、得点があったときにフィールド上に得点したチームの交代要員がいたことに気づいた。
- (2) ボールインプレー中に観客席で笛が吹かれた。その笛を主審が競技を停止した笛と勘違いした B チームの 8 番が手でボールを拾い上げた。
- (3) ペナルティーマークからのキックの進行中、A チームのゴールキーパーがプレーを続けられなくなった。A チームはすでに規定の交代は終わっていた。相手チームに退場者があったため、競技者数を等しくするために 1 名の競技者が除外されていた。
- (4) ペナルティーマークからのキックの進行中、主審がキックを行う合図をしたあと、ゴールキーパーがゴールラインから離れて飛び出し、同時にキッカーも不正なフェイントを行った。